



東京工業大学学長

ます

かずや

益 一哉さん

1954年、兵庫県出身。東京工業大学学長、工学博士。専門分野は電子デバイス、集積回路光学、ワイヤレス・センサ・ネットワークなど。1975年、神戸市立工業高等専門学校卒業後、同年、東京工業大学に編入学。1982年、同大学院博士後期課程修了、同年、東北大学助手、1993年に同大学助教授、2000年に東京工業大学教授。2018年4月より現職。

【写真】安岡 嘉

「世界最高峰の理工系総合大学」として イノベーションを担う高度人材を育成する

【取材・文】原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、株式会社スマートバリュー（東証一部上場）社外取締役、キャリアコンサルタント協議会常務理事・事務局長、高知大学客員教授・経営協議会委員、成城大学非常勤講師、中小企業診断士。早稲田大学卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材ソーシャルビジネスを展開。著書「定年後の仕事は40代で決めなさい」（徳間書店）、「インタビューの教科書」（同友館）など多数。

HARA'S
BEFORE

日本の科学技術を担う教育研究機関の一つ、東京工業大学。その経営については、かねてから関心を持っていた。高度人材育成への教育、すぐれた研究のあり方、イノベーションの創出、産学連携の推進など興味は尽きない。「世界最高峰の理工系総合大学の実現」を掲げるトップに話を聞いた。



Umano! — Kazuya Masu

リベラルアーツ教育で 高度人材を育てる

原：まずは大学教育の現状を教えてください。

益：東工大の学生は約1万人で、半分が大学院生です。9割の学生が大学院に進むことを念頭に入学しています。本学では博士育成を充実させるために、研究に取り組みたいという意思を持っている学生は、学士2年でも最先端の研究に触れられるプログラムも行っていきます。

科学技術の進化を促進するには、科学や技術

のことだけを考えるのではなく、人間そのものや社会への広い理解も欠かせません。そのためにリベラルアーツ教育が重要です。本学では戦後早くからリベラルアーツ教育を重視してきました。多くの大学では教養教育は学士課程だけで行っていますが、本学では博士後期課程までやっています。

原：高度人材不足はビジネス界でもよく話題になりますが、なぜ、なかなか進まないのでしょうか。

益：社会的に高度教育への理解がまだまだ足りず、企業も高度人材の活用が十分にできていないからでしょうね。大学側や公共側の努力も足りないかもしれません。たとえば、官公庁には博士の学位を持った人がとても少ない。高度人材育成の議論を行う側に、博士が極めて少ないという事実が象徴的だと思います。

大学側でも、産業界で活躍できる高度人材を増やしているところですよ。よく博士は「専門バカ」と揶揄されて使いづらいとされていますが、今の博士後期課程ではリベラルアーツやリーダーシップ、アントレプレナーシップ教育なども行っており、幅広い教養を持って活躍できる人材を育てています。

原：「教育改革、研究改革、ガバナンス改革」という3つの改革に取り組んでいるそうですね。

益：教育改革については、主に再編成に取り組んできました。2016年に学部と大学院を統合・再編成して「学院」を創設し、学士課程から大学